＜長崎県＞

幼稚園の人材確保支援事業　事業結果報告書

●調査研究テーマ

ウ　離職防止・定着促進

●調査研究課題

専門家による幼稚園教諭への支援を通した離職防止・定着促進に関する研究調査

●目的

専門家による幼稚園・幼保連携型認定こども園に在園している気になる子どもやその保護者対応への支援を行い、幼稚園教諭・保育教諭の負担軽減を図り、離職防止・定着促進につなげる。

●主な内容

①１年次に支援を行ったモデル園に対し、支援内容の効果について調査の実施・分析
②専門家によるモデル園でのティーチャー・プログラムの実施
③研究発表会の開催
④研修会の開催

●取組の概要

（１）幼稚園教諭・保育教諭等のストレスに関する実態調査のためのアンケートの実施

〇目的

平成 29 年度に「幼稚園教諭・保育教諭等のストレスに関する研究」を行った。この研究で、幼稚園教諭等がストレスを感じる要因、離職したいと思う原因などについての情報が得られた。そこで、平成 30 年度は、前年の研究結果に基づき、幼稚園教諭等の離職を防ぐための対応策について検討するための調査を行った。

〇結果

【平成３０年度の調査結果の考察（抜粋）】

・幼稚園教諭は「きっかけがあれば辞めたい」と考えている人が保育所に比べ多く、一方で「定年まで勤めたい人」は、幼稚園・認定こども園では少ない。
・幼稚園では、辞めたい理由は残業や時間外労働の多さが理由となっていることが示されるなど、時間外勤務の多さは、幼稚園における大きな課題であると考えられる。
・「時間外勤務の仕事内容」において、「保護者対応」については保育所、認定こども園に比べ幼稚園が圧倒的に多い。
・仕事に見合う給与の増加、職員増員、持ち帰り及び、時間外労働の軽減が幼稚園教諭等の仕事の長続きのために求められていると言える。
・発達障害の診断があるまたはその可能性がある子どもの比率は幼稚園 - 7.6%、認定こども園-7.9%、保育所-9.0%であった。
・幼稚園、認定こども園、保育所共に子どもの行動、情緒、対人関係などの問題で悩みを抱えている職員が多い。

・発達障害などの支援・配慮が必要な子どもへの対応を検討することも幼稚園教諭等のストレス軽減において重要様なことと考えられる。

（２）　専門家によるモデル園での「ティーチャー・プログラム」の実施

〇目的

臨床心理士などの専門家を幼稚園・幼保連携型認定こども園に派遣し、気になる子どもやその保護者対応に効果が期待できるティーチャー・プログラムを幼稚園教諭・保育教諭に実施することで、幼稚園教諭・保育教諭の負担軽減を図る。

〇取組内容について

【対　象】　希望する園

【回　数】　・各園１回のオリエンテーション、６回のセッション（１回あたり９０分程度）
・実施前後のアンケート

【方　法】　・専門家が直接、園に出向き、セッションを行う。

【効果等】　・平成２９年度ティーチャー・プログラムを受講した効果を実感している教諭等が多い。
・同プログラムが回答した全教諭等の「気分・やる気」に効果があったことが示されている。
・「子どもの行動のとらえ方が変わった」「子どもの良いところに気づけるようになった」「子どもの行動が少しでもできていたらギリギリセーフと考えることができた」などの意見が聞かれるなど、教育や保育における対応が変容したことが示されている。

〇インターネット回線を利用したセッションの実施

複数の園と専門家がスカイプを活用してつながり、セッションを行うもの。

（３）　研究発表会の開催

〇目的

長崎大学と連携・協力して実施した、幼稚園教諭・保育教諭のストレス等に関する実態調査の結果や負担軽減につながる支援 TP の効果などの研究の成果と課題を周知することで、各園等の運営や教育・保育の質の向上を図る。

〇内容等

【日　時】平成３０年９月２１日（金）

【会　場】長崎大学　文教スカイホール

【内　容】　・行政説明「幼稚園等の人材確保支援事業の概要」長崎県こども未来課
・研究発表「幼稚園教諭等のストレスを軽減するための取組
～ティーチャープログラムの活用をとおして～」
長崎大学　岩永竜一郎　教授
・実践発表「にしざきこども園での取組～ティーチャープログラムの実践を通して」　幼保連携型にしざき認定こども園

【当日のアンケート結果】　　（数値単位　　上段：人　　下段：％）

大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未記入	計
３５	１８	０	０	０	５３
６６．０	３４．０	０	０	０	１００

自由記述（一部抜粋）

・子どもやその保護者への接し方、また職員間においてのコミュニケーションの大切さなど、今後の保育生活において、大変参考になった。
・子どもと関わる上で、保育士自身が心にゆとりをもって保育ができると、子どもにも保育士にも変化があり、より良い保育を行っていくことができるものだと思った。
・自分の職場ではもちろん、保護者の方で悩んでいる方がいれば、（今回の内容を踏まえ）アドバイスをしていきたいと思った。
・バーンアウトによる離職があることに、今まで気付いていなかった。保育士や保育にいろいろなことが求められて、一人一人のストレスも複雑になっていると感じている。にしざきこども園の実践がとても参考になった。全職員で研修したい。
・大人の発達障害について、対応の仕方など、もっと詳しく聞きたいと思った。
・職員に対するサポートが大切だと思った。

（４）「子どもの見方・関わり方を学ぶ研修会」の開催

〇目的

幼児期から学童期（小学校低学年程度まで）の子どもたちに関わっている保育者・教職員等を対象とした研修で、発達障害等により人との関わりに困難があったり、保育・教育上配慮を要したりする子どもの行動の客観的な理解の仕方を学び、発障害等のある子どもへの保育・教育に必要な知識や技能の向上を図る。

〇内容等

【日時・会場】　長崎会場　　平成３０年　９月２５日（火）　県庁
諫早会場　　平成３０年１０月１６日（火）　西諫早公民館
佐世保会場　平成３０年１０月２３日（火）　アルカス SASEBO

【内　容】　講義・演習「発達障害のある幼児の理解と支援について」
長崎大学　岩永　竜一郎　　教授
＊プログラム内容
・子どものいいところ探しと子どもの行動の分類（２回）
・発達障害の特性に関する講義
・発達のとらえと目標シートによる演習
・誉めることリストの作成（研修会終了後、一週間、自園で実践）

【当日のアンケート結果】　　（数値単位　上段：人　下段：％）

大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未記入	計
１４１	３１	１	０	２	１７５
８０．６	１７．７	０．６	０	１．１	１００

自由記述（一部抜粋）
・改めて、保育を見直すきっかけとなった。
・「頭では分かっていても…」ということがあるので、気持ちを改めて保育をしていきたい。
・クラス懇談会で、研修内容を伝えたい。
・シート等、実際に現場に取り入れて、今回学んだことを実践したい。
・日常生活の中で、「当たり前のこと」をたくさん見つけて、それを言葉にして伝えていこうと思う。
・スペシャルタイムを園で行えるよう、園全体で環境づくりをしたい。
・子どもを変えるのではなく、保育者のかかわり方を変えると子どもも変わるということが理解できた。
・子どもに限らず、人と人との良い関係づくりを振り返る時間となった。

●普及・啓発
TP の手法や要素を取り入れた資料を作成し、幼稚園等に配布予定。

●今後の取組み予定
１、２年次の研究及び効果の普及・啓発を継承するとともに、幼稚園教諭等が抱える「気になるこどもや、保護者への対応」「職員間の良好な関係づくり」等人間関係全般にかかる心理的負担の軽減についての研究と、その効果を検証する。